

平成13年度 日本動物学会賞等の選考を終えて

日本動物学会 学会賞等選考委員会
委員長 八杉 貞雄

本年度の学会賞等選考委員会は、動物学会賞、奨励賞、江上基金の選考に加えて、今年から始まった日本動物学会 OM 賞の選考もあって、かなりの負担を強いられた。またそれぞれの応募・推薦数も多数に上り、選考は容易ではなかった。

学会賞には、8名の方の推薦があった。学会賞は動物学にたいして多大の貢献をした方を対象とし、その貢献を顕彰するものである。委員会では、応募者の業績とそれが現在の動物学でどのような広がりをもっているかを中心に議論した。推薦された方は、上記の基準に照らして、どなたが受賞されてもおかしくない状況であったが、慎重に審査した結果、脳内でもステロイドホルモンが産生されていることを発見し、この分野に新しい光を投げた筒井和義会員と、アフジコリンを発見し、それを用いた研究を精力的に展開してこられた池上晋会員に、本年度の動物学会賞を授与することが決まった。なお、今回はお二人とも広島大学の所属であるが、同一大学からの同時受賞は前例もあり、審査の過程ではそのことは特に考慮されなかった。

生物科学ニ2-ス
2001年 8月号
P. 19